

モヤモヤに向き合う

2026年8月 飯舘D班

西牧里紗，國分華，引地翔大
濱田郁哉，稲本悠人，小松青意

実際に行って感じた飯舘村の現状

想像していた飯舘村

- 事故の影響で生活が制限されている
- 交通アクセスが悪い
- 人がまばらで活気が少ない



実際に見た飯舘村

- 普通の生活を送っている
- 道が整備されている
- まいでい館を中心に活気がある
- 農業や畜産業が伸びている

実際にお話を伺って知った畜産農家・山田さんの声

想像していた山田さん

- ・事故後の苦労を中心に語る
- ・風評被害が今も続いている
- ・特別な思いをもって帰村した
- ・不安や不満



実際の山田さん

- ・前向きな気持ち
- ・飯館に戻って畜産業を続けることに特別な気負いはない
- ・風評は長く続かなかった
- ・農業や畜産業が抱える一般的な課題に悩む

実際にお話を伺って知った畜産農家・山田さんの声

①実際に行って、直接お話を聞いて、
わかることがある

②これまで私たちは被災地について
関心を持って知ろうとしていたか



中間貯蔵施設で感じたモヤモヤ

中間貯蔵施設にな
った土地の持ち主
の思い

2045年までに
県外での最終処分
は可能なのか

土壌の再生利用が
「復興」につなが
るのか



1Fで感じたモヤモヤ

デブリの取り出し
が難航している現
状から、廃炉の目
途が立たない

何をもって廃炉と
するのかに対して
まだ明確な回答が
ない

東電の取り組みへ
の理解の促進を妨
げるような報道



1Fで感じたモヤモヤ

「復興」って何だろう...

私たちになりに考えた「復興」

〈 捉え方 〉

- ・ 事故起因の特殊な背景
- ・ 原状回復と創造的復興
- ・ 新文化の創出と既存文化との接続

〈 判断基準 〉

- ・ ソフト面
 - 住民の帰還と営み
- ・ ハード面
 - 生活インフラ・商業施設
 - ・ 娯楽施設

復興

〈 選ばれる町になるには 〉

「復興」という枠を脱した魅力発信
↔ 被災した歴史を無視してよいわけではない
⇒ 「ここでしかできない」動機の創出

測定 | 除染って効果がどのくらいあるの？

方針：除染の有無で採取し比較

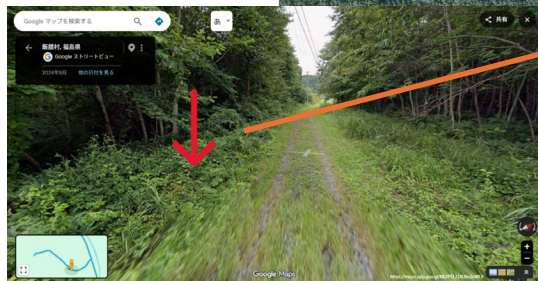
採取場所 @飯舘村 通称沼山

地点 1：除染前 山中

地点 2：除染後？ 小道

地点 3：除染後 小屋入口

地理院地図
GSI Maps



結果

地点		地点① 除染前 山中	地点② 除染後？ 小道	地点③ 除染後 小屋入口
空間線量 [μ Sv/h]	5cm	0.866	0.365	0.257
	1m	0.696	0.350	0.347
土壌(5cm) [Bq/kg]		5284 $\pm$ 70	205.0 $\pm$ 29	105.9 $\pm$ 17
葉(ササ) [Bq/kg]		207.9 $\pm$ 13	142.2 $\pm$ 7.7	172.3 $\pm$ 17
茎(ササ) [Bq/kg]		--	856.3 $\pm$ 436	--

- 除染によって、空間線量と土壌では値が低くなった
- 葉は、空間線量や土壌と比べると差は小さい
- 茎は、葉に比べて放射能濃度が高い

なぜ茎のほうが高い？

<参考>

植物の性質

- ・ 養分としてKを吸収する
- ・ Kと誤ってCsを吸収する

タケノコの性質

- ・ **地下茎**があることで
放射能濃度が下がりづらい

考察

- ・ **葉**は寿命が短く、**茎**や**地下茎**は長い
 - ・ **茎**や**地下茎**は養分を貯蔵・調整・分配する役割
 - ・ 複数の地上部（**葉と茎**）が**地下茎**を共有している
 - ≡ ほかの植物に比べて総量が多い？貯蔵期間が長い？
- ⇒ 養分を長期的に貯える**茎**や**地下茎**の値が高くなるのでは？
＋**地下茎**がある植物はもしかすると値が高くなりやすい？



タケの葉のIP
飯舘村(比叡地区)
2014/6/17 採取